

令和6年度 かほく市立金津小学校 学校評価中間報告書

経営目標	取組内容	主担当	(昨年度末最終達成状況) 現状	評価の観点	達成度判断基準	備考	取組状況	達成度(判定)	後期の方向性(改善計画等)	学校関係者評価者(学校運営協議会委員)による意見
1 学力の向上	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、授業改善を図る。	学習指導(釜井)	(A:90%以上) ・教師主導ではなく、児童主体の授業を目指して学習方法を個人で選択できるようにしていく。	【努力指標】 個に応じた指導や支援を行うために、考えをもつ時間や場を設定して、学び合いにつなげることができる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合、要因を明らかにして、重点の再確認・検討をする。	「個別最適な学び」のために、研究授業では、抽出児童の様子を見取り、児童に合った手立てができていたかを検証した。学習方法や学習形態の選択を意識している。また、「協働的な学び」のためにもペアやグループでの交流を積極的に取り入れている。	1+2 100%	A ・「個別最適な学び」のために、多様な意見を引き出すように、間違いや不十分な考えを認めるようにする。また、「協働的な学び」のために、かかわり合う時のねらいを教師が明確にもつようにしていく。	・A評価であるのは、先生方の日頃の努力の賜物である。ただ、これに満足せず、さらに積み重ねて後期は α になるように、力を合わせて日々取り組んでほしい。 ・一人一台端末のある程度年数が経ってきたように思われる。低学年児童にとってはタブレット自体が重いようにも思われる。そのことも合わせて、遠くないうちにタブレット本体の機種変更も必要になってくるのではないかと。(ネットワーク環境も含めて)
	個に応じた学力の向上と学び方の習得をめざす。	学習指導(釜井)	(A:90%以上) ・自分たちのクラスで不十分などところをめあてに設定することで、意識化を図ることができたため、次年度も継続して行っていく。	【成果指標】 5つの項目について、児童は常に意識し、一定の定着率に達している。	「あさはよしを意識して学習に取り組むことができた」と回答する児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、指導のあり方を検討する。	・全校で取り組みたいことを明確にし、知らせることで、あさはよしの中でも特に「は」の返事と反応を意識することができた。また、各クラスでもあさはよしの不十分な点をめあてにして取り組むことで、意識を高めるようにした。	1+2 93.7%	A 学習の基盤となる「あさはよし」に加え、探求的な学びの流れを児童と共有し、自分のタイミングで学習方法や学習形態を選択することができるようにしていく。	
	1人1台端末を活用した効果的な学習に努める。	GIGA推進(北)	(A:年間7回以上) ・今後も月1回程度の研修を行い、効果的な活用方法について共通理解していく。	【努力指標】 考えを交流する場面や学習を深める場面でICTを活用することができる。	ICT活用についての授業実践研修会を A:年間7回以上 B:年間6回以上 C:年間5回以上 D:年間4回以下	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	GIGA校内研修会 ・月1回のICTを用いた公開授業を通して、効果的な活用方法を学んだり、活用しようとする気持ちを高めている。	1+2 100%	A ・月1回程度の公開研修を今後も継続して行っていく。	
				児童アンケートでは、A(90%以上) ・今後も楽しく活用できるように、全教員で活用の推進をしていく。	【満足度指標】 1人1台端末を使った授業が楽しいと感じている。	楽しいと感じている児童が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	Cの場合には、指導のあり方を検討する。	場面に合わせて、学習用端末を活用することで、楽しく授業を行うことができた。	児童 1+2 96.8% 教員	
	カリキュラム・マネジメントを推進し、自ら考え行動する力を育成する。	教務(瀧田)	(A:90%以上) ・3学期の実践も通して児童と教師の評価の不一致が一致するようになってきたかを引き続き見ていく。	【努力指標】 カリキュラム・マネジメントの柱「自ら考え行動する力の育成」を意識して、指導を行っている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:80%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	・今年度は、学校研究とも連携して評価項目を4項目とした。さらに、評価する教科も総合だけでなく個人で決めることにした。全体の取組を見ると、今年度も1~6年生は総合的な学習で評価を行い、特別支援学級では自立活動で評価を行うことになった。評価ポイント児童と球磨賞ながら進めたいと言う点を中心に前期をふり返りたい。	1+2 100%	A 前期のふり返りをもとに、児童と教師の意識や力点がずれないように実践を重ねていく。	

2	生徒指導の推進	「めあて」や「きまり」に対する自己評価を定期的にを行い、よりよい行動への意識と実践力を高める。	生徒指導 (佐竹)	(A:90%以上) ・生活目標の取り組み方に慣れてきている。学校生活の生活習慣の一部のようになってほしいので、継続していく。	【成果指標】 生活目標を意識し、よりよい行動ができるように取り組んでいる。	生活目標のふり返りにおいて、児童肯定的な評価をする児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組項目や方法について再検討する。	生活目標集計表	各学級でその月のめあてを決めて取り組むことができたが、A評価は70%と高くない、80%を目指して呼びかけや中間評価を行ってきたい。	1+2 95%	A	前期に振り返りをとくに、児童の言葉で目当てを設定し、月の途中で生活目標についての話をして意識をもてるようにする。	・改善計画通りをお願いしたい。 ・学校生活を楽しく思っている児童が増えてきたことは喜ばしいことだが、楽しさを感じていない児童も数名いる。改善できるように注意して見守り、一人一人に応じた支援を通して、一人も取り残さないようにしてほしい。
			(A:90%以上) ・規則正しい生活に対する意識の継続ができるように声掛けしていく。またメディアとの付き合い方児童に啓発していく。	【成果指標】 セルフチェックを通して、自己のよりよい生活習慣の定着に取り組んでいる。	セルフチェックカードの肯定的な評価をする児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	セルフチェック集計表		早寝・早起き・朝ご飯などの基本的な生活習慣については定着は見られるが、メディア時間は2～3時間の児童が増えてきた。児童にも保護者にも時間の使い方を啓発していく。	1+2 92%	A	時にメディア時間の増加を抑制できるように家での時間の使い方や家庭学習における有効なクロムブックの使い方などを紹介していく。		
		生徒指導の視点に沿った教育活動を通して、自他を大切にする心情を育成する。	生徒指導 (山口)	(A:90%以上) ・今後も継続していき、より一人一人の頑張りを児童にも保護者にも広めていけるようにしていく。	【努力指標】 よさを認める場の設定や、よさを伝えることに積極的に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、自主的・実践的態度を育成するための手立てについて、再検討、工夫を講じる。	学期末教員自己評価	「自分も友達も大切にする学校」を目指すことを共通理解し、各クラスで帰りの会に相互評価する時間をとったり授業で友達とめ合ったりして取り組んできている。今後は枠を広げて全校きざしカードにも取り組んでいきたい。	1+2 100%	A	今後も安心安全な学級・学校づくりに向けて、自分も友達も大切にすることをめあてとして取り組みを続けていく。	
			(B:80%以上) ・安心して過ごせる学校をさらに目指して、人の気持ちを考える機会をさらに設けたり、児童に素敵な姿を伝え、広めていく。	【成果指標】 児童は、自分のよさに気づいている。	「自分にはよいところがある」と回答する児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	学期末児童アンケート		コミニテを実施し、自分の思いを受け止めてもらえる経験をしたり、友達に共感的に反応したりすることを通し、さらに安心して学習や行事に取り組めるようになってきて	1+2 85.7%	A	コミニテを継続するとともに、SCIによる人間関係づくりプログラムを実施し、コミュニケーション能力の向上を図るとともに自他を大切にする心情を育てていく。		
		特別支援教育についての理解を深め、だれもが安心して学べる環境を整える。	生徒指導 (山口)	(A:90%以上) ・未然防止にさらに注力し、児童の困っていることなども発信して、保護者と学校とがさらに協力できるように情報を発信していく。	【努力指標】 個別の支援シートを作成した児童を中心に、全校体制で支援を行うとともに、いじめや問題行動の未然防止に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、体制及び運営について検討する。	学期末教員自己評価	毎月いじめアンケートを実施し児童の様子をつかんでいる。軽微な事であっても児童の気持ちを大切に共感しながら聞き取り対応をしていることで、その後の経過が良好な様子である。	1+2 100%	A	月に1回のいじめアンケートの継続をし、児童のそのときの気持ちに寄り添っていく。	
			生徒指導 (山口)	(A:90%以上) ・個別に最適な学習の進め方や児童主導の授業スタイルにチャレンジしていく。	【努力指標】 学習や生活に生徒指導の視点を生かしている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	児童、教員で「みんなが活躍する授業」を目指すことを共通理解し、学習部と連携して児童自らつくりたい授業を意識して取り組んできた。各クラスの担当がクラスに合った挑戦をし、少しずつ定着してきている。	1+2 100%	A	

3	情操豊かな心の育成	<p>道徳の授業を中心に、道徳教育の推進を図り、道徳性を養う。</p>	<p>道徳教育推進教師(山本)</p>	<p>(A:90%以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別業の内容を見なおし、重点目標について意識して指導できるようにしていく。 ・地域とも連携し、ゲストティーチャーを招く機会を設けていく。 	<p>【努力指標】 道徳の授業づくりを工夫する。</p> <p>ア 中心発問の吟味 イ 言語活動の充実 ウ 価値の自覚化 エ 道徳掲示の蓄積</p>	<p>肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満</p>	<p>Cの場合には、道徳の授業展開の再検討を図る。</p>	<p>学期末教員自己評価</p>	<p>・教科書改訂に伴い、別業の見直しを行った。 ・ゲストティーチャーの招聘はできていないが、道徳だよりで地域や家庭に学校での取組を知らせている。</p>	<p>1+2 100%</p>	<p>A</p>	<p>道徳のOJTを行い、道徳授業のつくり方についての共通理解を図る。また、道徳だよりの発行を継続して行う。</p>	<p>・改善計画通りをお願いしたい。</p>
		<p>「金津の森」を活用した自然体験活動や、講師を招いての文化的体験活動、交流活動に取り組み、豊かな感性を養う。</p>	<p>教務(瀧田)</p>	<p>(A:90%以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「金津の森活用計画」を推進し、伝統となるものは伝統化していく。 ・新たに金津の森を発信していく手立てを考え、計画を具体化していく。 ・「金津の森プロジェクト」や1時間の授業だけで完結してしまわずに、その経験から次の活動に結び付け、継続的に講師の方と連携して活動していく。 	<p>【成果指標】 「金津の森活用計画」に基づき概ね活動できている。</p>	<p>肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満</p>	<p>Cの場合には、その要因を明らかにし、金津の森活用計画の内容について再検討する。</p>	<p>学期末教員自己評価</p>	<p>・昨年度の実績のもとに今年度の計画が立てられた。金津の森プロジェクトも昨年度とは違った内容も盛り込まれ、いろいろな金津の森の魅力に触れることができた。</p>	<p>1+2 100%</p>	<p>A</p>	<p>予め立てられた計画だけでなく、新しい内容も取り込んでいってレベルアップを図っていく。</p>	
4	健康と体力の向上	<p>「体力アップ1校1プラン」をもとに、体育の授業や「風っ子タイム」「のびのびタイム」を通して体力向上の目標達成に努める。</p>	<p>特別活動 体力づくり(北)</p>	<p>(A:90%以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も教科体育と体育行事を軸にしなが、楽しみながら児童の体力を向上させることができるようにしていく。 ・今後も、風っ子タイムで運動に親しむ機会を設け、運動が楽しいと思える児童を育てていく。 	<p>【努力指標】 教科体育において、課題となる運動能力の強化を含め、体力向上に取り組んでいる。</p>	<p>肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満</p>	<p>Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。</p>	<p>学期末教員自己評価</p>	<p>・つけたい力を明確にし、達成感の感じられる授業開発に取り組んでいる。</p>	<p>1+2 100%</p>	<p>A</p>	<p>・今後も教科体育と体育行事を軸にしなが、楽しみながら児童の体力を向上させることができるようにしていく。</p>	<p>「早寝・早起き・朝ご飯」をはじめとする規則正しい生活は、健康的な生活の基盤であり、健全な成長や前向きに学校生活を送るために大切である。保護者の生活スタイルが子どもたちの生活スタイルとなっていくこともあるので、睡眠も含めた規則正しい生活の重要性を保護者に啓発して欲しい。</p>
				<p>【満足度指標】 児童は、楽しく進んで運動に取り組んでいる</p>	<p>風っ子タイムに楽しく取り組んでいる児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満</p>	<p>Bの場合には、取組について、検討、改善を行う。</p>	<p>学期末児童アンケート 体力アップ1校1プラン実施状況</p>	<p>・学期に1回の風っ子タイムを通して、運動に親しむ機会を設けている。</p>	<p>1+2 96.9%</p>	<p>A</p>	<p>今後も風っ子タイムを通して、運動に親しむ児童を増やす。</p>		
		<p>健康課題の解決のための継続的な取組を実施するとともに、家庭と連携してよりよい生活習慣の定着を図る。</p>	<p>保健安全(田中)</p>	<p>(教員評価A:90%以上) (児童・保護者アンケート A:90%以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続していく。 ・給食時の姿勢等の声掛けも継続する。 ・健康の秘訣睡眠、食事、運動、排せつの4つを年間通じて指導していく。 	<p>【努力指標】 視力をはじめ健康管理等の指導の充実に取り組んでいる。</p>	<p>肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満</p>	<p>Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。</p>	<p>学期末教員自己評価</p>	<p>視力B以下の児童の保護者にお知らせを配付し、受診勧告した。歯科保健教育は、学校歯科医による歯みがき教室を実施した。(1年～4年対象)</p>	<p>1+2 100%</p>	<p>A</p>	<p>ランチルーム給食時間を利用して、良い姿勢、歯みがき指導の声掛けを実施する。</p>	
<p>【成果指標】 児童には、健康的で規則正しい生活習慣が定着している。</p>	<p>毎月のセルフチェックの結果及び学期末、児童・保護者アンケートが A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満</p>	<p>Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。</p>	<p>学期末児童及び保護者アンケート</p>	<p>規則正しい生活習慣は熱中症対策、けが等の防止につながっていることを指導できた。</p>	<p>児童 1+2 96.9% 保護者 1+2 92%</p>	<p>A</p>	<p>2学期の食育講座で栄養教諭と連携し早寝、早起き、朝ご飯について指導する</p>						

5	家庭や地域から信頼される学校づくりの推進	各種たよりやホームページ等により、積極的に学校の情報を発信する。	教頭 (井上) 情報 (北)	(A:90%以上) ・コドモンでは、スマートフォンで見る保護者も多いと思われるため、スマートフォンでも見やすいように写真を多く入れたり、文字の大きさに配慮したりし便りを心掛けていく。 ・今後も計画的に配信や更新を行っていく。また、ホームページの更新も保護者に伝えていく。	【努力・満足度指標】 HPや学校だより等各種たよりで、学校の情報を発信している。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Bの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	・コドモンを活用することで、子どもの様子を発信することができた。	1+2 100%	A	データ配信が基本となるとこまめに確認する保護者となかなか見ない保護者がいることが課題。機会を見て周知を図るようにする。	・改善計画通りをお願いしたい。
			教頭 (井上)			肯定的な評価をする保護者が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満		学期末保護者アンケート	・HPのQRコードを学校だよりにも載せて、学校生活の様子をこまめに更新していることを周知できた。	1+2 98.5%	A	8月より学校だよりの地区回覧を行わないことになったので、地域に学校の様子を知ってもらう手立てが必要である。	・金津の森プロジェクトの活動等、地域の方々に協力を呼びかけるものは、全戸配付、回覧配付、掲示板配付を通じてお知らせしていけばどうか。
6	多忙化改善と人材育成	提案内容や取組内容の精査、会議の効率化・簡略化を図るとともに、最終退校時刻の設定を行う。(毎週水曜日の定時退校の徹底)	教頭 (井上)	(A:90%以上) ・勤務時間管理を意識した働き方を促すことで、業務改善の意識を高めるとともに、教職に対するやりがいを持つような職場づくりを目指していく。	【成果指標】 業務改善の取組が勤務時間の改善に表れている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	業務改善の視点からの提案が意識されてきた。時間外勤務については、個人差があり、改善の余地がある。	1+2 100%	A	提案内容を見直し、終礼時やC4thの掲示板を活用することで、会議の効率化をさらに進める。	・改善計画通りをお願いしたい。
		PDCAサイクルを意識した提案と達成状況の把握により、責任を持った業務の遂行に努める。	教頭 (井上)	(A:90%以上) ・今後も、全職員の共通理解・共通行動が図られるよう、各担当がわかりやすい提案に努めていく。PDCAについては、特に検証・改善を確実にを行い、さらによりよいものにしていく。	【努力指標】 PDCAサイクルを意識して、担当業務を進めている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		Cの場合には、取組について、指導、改善を行う。	学期末教員自己評価	各担当は担当者意識が高く、責任感をもって、業務に取り組んでいる。検証から次の取組への改善に活かすことができるようにする。	1+2 100%	A	